



汲み置きした容器(ボトル)の底を叩いたとき、マグスティック内から気泡(水素)が出れば、水は十分に整水されています。

しかし、使用回数が増えるに従い、整水材表面に水酸化マグネシウム < $Mg(OH)_2$ - 無害 > や塩化マグネシウム < $MgCl_2$ - 無害 > などが付着し、整水力が劣化して、整水に要する時間が徐々に長くなってきます。

整水力の弱まったマグスティックを使用されると、水が十分に還元されないことになりかねません。商品に添付された『pH測定液』を使って、1ヶ月に1度程度の定期的な整水力チェックを行っていただき、整水力が弱まっていると判断される場合は、『クエン酸洗浄によるお手入れ』をしていただくことをお勧めいたします。

『pH測定液』を使用される場合は、必ず別容器にミネラル還元水をとってから試薬を入れてください。

試薬の色の変化を水道水と比較していただくと、還元されているかが判断できます。試薬の色が青色に変化すれば、pH 8前後の弱アルカリ性の水に変わっていますので、整水力は持続しています。



「pH測定液」を入れた水は、必ず捨てていただき、決して飲まれませんようご注意ください。

4. マグスティックは、常に水に浸した状態でお使い下さい。

マグスティック内の整水材は、一旦水に浸すと常に水と反応し始めます。容器(ボトル)内の水がなくなり、空気に触れた状態が長時間続きますと、付着している水分との反応により、整水材表面に水酸化マグネシウム < $Mg(OH)_2$ - 無害 > が多量に付着し整水力が著しく低下いたします。

一旦水に浸したマグスティックが、長時間空気に触れた状態にならないよう、水の補給をして下さい。



← ここまで飲んだら、水を補給！

稀に、整水材表面に付着した水酸化マグネシウムなどが溶出して、水が白濁することがあります。このような場合は、『クエン酸洗浄によるお手入れ』によって、整水材表面に付着した水酸化マグネシウムなどを取り除くことができます。

5. **整水力が低下したときは、『クエン酸洗浄によるお手入れ』をしていただくと整水力が回復します。**

整水力低下の度合いは、ご使用になる水道水の水質や残留塩素濃度、ご使用頻度などに依存しますが、整水力が低下したときは、お手入れしていただくと整水力が回復します。

お手入れ方法の詳細は、<ミネラル還元整水器”元気の水” - 『お手入れ』について>をご参照ください。

6. **整水材の残量が少なくなったら、買い替え時期です。**

お手入れをされる際には、マグスティックを水に浸したまま光にかざし、内部の整水材の残量をご確認ください。

マグスティックの穴が、2個以上透けて見える場合は、新たなマグスティックが必要な時期です。メーカー推奨使用期間は1年ですが、上手にご利用いただければ、500回以上はお使いいただけます。

使い終わったマグスティックは、不燃物として処理してください。



7. **その他、留意していただきたいこと**

- 水の温度が低い場合、マグスティックの整水力が鈍ります。
冷蔵庫に入れて冷水を作られる場合は、ひと晩程度置いてください。
- **60度以上のお湯には、決して浸さないで下さい。**
マグスティックは、常温水(室温水)と最適な反応をするようになっております。熱水に浸されると、マグスティックのケースが溶出することが考えられ危険です
- 水の白濁や白い浮遊物、沈殿物などは、水や残留塩素と整水材との反応によりできた**水酸化マグネシウム** < $Mg(OH)_2$ - 無害 > や**塩化マグネシウム** < $MgCl_2$ - 無害(にがりの主成分) > が固形化したものです。

水酸化マグネシウムや塩化マグネシウムなどは、無害ですので、そのまま飲まれても全く問題はありません。
気になる場合は、酸洗浄によるお手入れをしていただくことをお勧めいたします。<”ミネラル還元整水器”元気の水” - 『お手入れ』について”をご参照ください。>
- **炭酸水や炭酸飲料など、弱酸性の飲み物で使用されることはお控えください。** 整水材との反応により、飲み物中の炭酸が抜けてしまいます。
- 長期間使用されないときは、冷凍庫で保存するか、水に浸したままにしておくことをお勧めいたします。

なるほど元気塾

<http://www.naruhodo-genki.com/>